

国語科教科書の魯迅「故郷」脚註について

高木 徹*

On Japanese Textbooks of Lu Xun's "Guxiang"

TAKAGI Toru

要 約

小学校・中学校の国語科教科書には外国文学の翻訳作品が多く収録されている。それらは外国の言語や文化を背景とするだけに、理解しにくい箇所が含まれる可能性があり、丁寧な教材化が必要とされる。具体的には、異なる言語・異なる文化が理解の妨げとならないように配慮した、懇切丁寧な脚註が欠かせない。そうした観点から、魯迅「故郷」の教科書脚註を検討する。

キーワード：国語科教科書 外国文学 魯迅「故郷」 脚註

1. 国語科教科書の翻訳教材

小学校・中学校の国語科教科書には外国文学の翻訳が多く収録されており、中でも小学校一年の「おおきなかぶ」、中学校一年のヘッセ（高橋健二訳）「少年の日の思い出」、中学校三年の魯迅（竹内好訳）「故郷」などは、物語・小説の分野で、いわゆる「定番教材」とも言うべき位置を占めている。

中学校二年の「定番教材」である「走れメロス」も外国にルーツ（シラー「人質（Die Bürgschaft）」を持つ小説であることを考えると、中学校全学年で、外国文学または外国にルーツがある作品を読んでいることになる。高等学校の国語科教科書に外国文学の翻訳作品がほとんど見られないことと比較すると、不思議な話である。

国語科教科書に外国文学の翻訳が掲載されているのは、『学習指導要領』の以下の記述が根拠であろうか。

まず『小学校 学習指導要領』（平成29年告示）

では、第2章「各教科」の第1節「国語」の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」に、「3(2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること」とあり、その下に「コ 世界の風土や文化などを理解し、国際協調の精神を養うのに役立つこと」(p. 41)とある。

『中学校 学習指導要領』（平成29年告示）では、第2章「各教科」の第1節「国語」の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」に、「3(2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること」とあり、その下に「ク 広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を養うのに役立つこと」(p. 39)とある。

ともかく、小学校・中学校の国語科教科書に多くの翻訳作品が掲載されているわけであるが、それらを教材として扱うには、より丁寧に慎重な教科書作りが求められる。もともと日本語で書かれた作品とは異なり、外国の言語や文化を背景としているため、理解の障壁となるものをなるべく取り除くような配慮が欠かせないのである。

具体的には、日本と外国との言語や文化の違いがわかるような丁寧な脚註をつけることが必要であ

* 中部大学現代教育学部現代教育学科

る。「少年の日の思い出」を例に取れば、「蛾と蝶には生物学的な意味での区別はなく、ドイツ語では、一つの言葉で両者を表すことができる」という趣旨の脚註のある教科書と、そのことに全く触れていない教科書とがある。このことを知らず、チョウ集めに熱中する少年の話だと思って読み進めていく生徒たちは、作中、最も重要視されるチョウが「ヤマユガ」と知って面食らうはずである¹⁾。

教員にとっても翻訳作品は教材研究を深めることが難しい。例えば「羅生門」の漢字表記に疑問があるときは、『芥川龍之介全集』を参照すれば大方解決する。『今昔物語集』と比較することも容易である。ところが、「少年の日の思い出」や「故郷」となると、普通の中学校図書館の蔵書に原典はないだろう。与えられた日本語訳の中で考えるしかない。苦労して原典を入手したとしても、ドイツ語や中国語の心得がなければ、原文と日本語訳との比較検討ができない

い。だからこそ、ドイツ文学や中国文学の専門家による、痒いところに手が届くような註が求められるのである。

こうした観点から、本稿では魯迅（竹内好訳）「故郷」に関し、中学校国語科の全社教科書²⁾の脚註を検討していく。

2. 魯迅「故郷」の教科書本文脚註

下に掲げるのは、中学校国語科教科書の脚註一覧である。脚註が辞書的な語釈レベルで、本稿の検討の趣旨から外れるものは、「略」とした。他社が註を設けている語句で註がない場合は「なし」としてある。全社「なし」とあるのは、どの会社も脚註を設けていないが、註が必要ではないかと筆者が考え、ここで検討する語句である。

語句 ³⁾	東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書
二千里（のはて）	ここでは、遠い距離の意。今の中国の一里は、約五百メートル。	今の中国の一里は、約五百メートル。ここでは、遠い距離という意味。	ここでは、遠い距離の意味。今の中国の一里は約五百メートル。	中国の一里は、約五百メートル。ここでは、はるかに遠く離れた所、の意。（魯迅の故郷は浙江省紹興だが、彼は当時北京に住んでいた。）
船	なし	なし	なし	なし
苦	略	略	略	略
一族（で住んでいた）	なし	大家族制度で、家長を中心に生活している血縁の家族の集まり。	なし	中国では、近代に入ってからでも大家族制度が残っていて、大きな家に家長を中心として数家族が同居しているところもあった。
旧暦	なし	なし	なし	中国は一九一二年に太陽暦を採用したが、民間では、旧暦（太陰暦）を使う習慣が残っていた。
やれ茎	略	略	略	略
刺叉	略	略	略	なし
獐（チャー）	略	略	略	略

国語科教科書の魯迅「故郷」脚註について

節季	略	略	略	略
閏月	略	略	なし	略
五行（の土が欠けている）	略	略	略	略
城内	市内。中国の町は外敵の侵入を防ぐために城壁で守られていることが多いので、城内とは城壁の内側全体に当たる。	町の中。町全体が城壁で囲まれていた。	昔、中国では、盗賊や外敵を防ぐために、町の周囲を城壁のような高い塙で囲っていた。それで、町のことを城内といったのである。	人の多く集まっている町の中。中国では町全体が城壁で囲まれていた。
稲鶏・角鶏・藍背	略	略	略	略
鬼おどし・観音さまの手	略	略	略	なし
高い塙に囲まれた中庭から四角な空を眺めている	なし	なし	なし	なし
スカートをはかないズボン姿	当時の中国女性は、ズボンの上にひだのあるスカートを着けていた。ただし、労働のときはズボン姿であった。	当時の中国の婦人は、ズボンの上にひだのあるスカートを着けるのが、一般的だった。	なし	ズボン（褲子）の上にひだのあるスカート（裙）を着けるのが、当時の中国女性の一般的な服装であった。労働のときなどは「スカートをはかないズボン姿」になった。
豆腐屋小町	原文は「豆腐西施」。西施は古代中国の絶世の美女。日本では、平安時代の歌人小野小町が美人だったと伝えられることから、美人の別称として「……小町」が用いられており、ここでもそれを訳語にしている。	原文は豆腐西施。「西施」は中国古代の美人の名。日本の小野小町同様、美人の別称として用いられているため、こう訳された。	小町は小野小町のこと、小野小町が美人であつたといわれるところから、美しい娘のことを「一小町」という。原文は「豆腐西施」。「西施」は、古代中国の呉越の争いに登場する美女。	原文は「豆腐西施」。西施は古代中国の美女。平安時代の歌人小野小町が絶世の美女だったことから、美しい娘のことを「一小町」というようになったが、それを訳語として当てたもの。
ナポレオン	略	なし	なし	なし
ワシントン	略	なし	なし	なし
（八人）かき	なし	略	なし	なし
きせる	なし	略	なし	なし
元が切れる	なし	なし	略	なし
兵隊、匪賊、役人、地主	匪賊―盗賊団。	匪賊―集団で略奪を行う盗賊。	いずれも、当時の中国で人民の敵とみなされていた。「匪賊」は、集団で略奪などをする盗賊。	当時の中国で、民衆の敵とされていた代表的なもの。「匪賊」は、集団で略奪などを行う盗賊。

香炉と燭台	略	略	略	略
纏足	中国では唐代末期頃から清代にかけて、女兒の足を布で固く縛って、足が大きく成長しないようにする習慣があった。その足のこと。	昔中国で、女性の足に、幼児から布を固く巻きつけて足を大きくしないうにした風習。	中国では、昔、婦人の足を大きくしないうに、幼児の時から布を固く巻きつける習慣があった。そうしてできた小さい足のこと。	昔の中国の風習で、女性の足が大きくならないように、幼児から布を固く巻き付けておくこと。ここでは、そうして小さくした足のこと。
偶像崇拜	木・石・土・金属などで作った像を崇拜すること。	なし	なし	なし

3. 脚註の検討

これらの註（あるいは註のない箇所）について、異文化理解を手助けするものとして適切かどうか、という観点から、順次検討していく。

(1) 二千里（の果て）

「故郷」冒頭の一文に出てくる「二千里の果て」（原文では「二千里」⁴⁾）である。各社とも共通して「遠い距離の意。」という説明を加えているが、果たしてそれだけであろうか。遠い距離としての「千里」を含む言い回しは、「千里眼」「千里同風」「千里比隣」「千里馬」など、いくつも見つかるが、「二千里」は多くない。よく知られているのは、白居易の「八月十五夜禁中独直对月憶元九詩」の「三五夜中新月色、二千里外故人心」くらいであろう。

国語科教科書の「故郷」は、すべて竹内好訳を使用しているが、その竹内好による『魯迅文集』⁵⁾の「訳註」では以下のように記されている。

二千里、二十年。すべて概数。この小説は魯迅が一九一九年十二月、一家をあげて北京へ移転するときの最後の帰郷を下敷きになっているが、事実そのままではない。距離の単位である里は昔はまちまちだったが、いまは五百メートルに統一された。

竹内の「すべて概数。」という説明を敷衍して、「遠い距離の意。」としたものだろうか。

一里が約五百メートルであれば、二千里は約千キ

ロメートルである。あまり正確とは言えないが、地図（正距円錐図法）⁶⁾上で、紹興・北京の直線距離を計測すると、約1,150キロメートルであり、二千余里と表現するにふさわしい。また、WEBサイトで紹興・北京間の車での移動距離を検索すると、1,300キロメートル程度の数字を表示するものが多い。

漠然と「遠い距離」を示すだけなら、一千里でも二千里でも三千里でもよいはずである。この二千余里は、実際の紹興・北京間の距離を念頭に置きつつ、「二千里」「二十年」（原文では「二千里」「二十余年」）という語呂の良さもあって採用された表現ではなかろうか。

(2) 船

「故郷」冒頭近くの、中国語原文では「天气又阴晦了，冷风吹进船舱中」⁷⁾とある箇所である。

ここで重要なのは、船がどこを航行しているかである。日本では日常生活の移動手段としての船は、ほとんどが海上交通である。本土と離島とを結ぶ定期連絡船であったり、長距離フェリーであったりする。ここを読む日本の中学生が大海原に行く船の中を想像する可能性もある。

「故郷」の船が航行しているのは、日本語訳から判断するかぎりでは、たぶん川であろう。故郷に向かう冒頭部分では、川か海かはっきりしないが、故郷から去る結末部分には、「船はひたすら前進した。兩岸の緑の山々は、たそがれのなかでうす墨色に変わり、つぎつぎと船尾に消えた。」とあり、（河口かもしれぬが）川と考えてよいだろう⁸⁾。

各教科書会社は理解を助けるために挿絵を利用し

ている。全社、描かれた人の大きさから推定して全長10メートル前後の小さな船が挿絵に使われているが、残念なことに挿絵が置かれているのは結末部分なのである。挿絵を載せるなら冒頭部分に置くことが望ましい。全社、「船」の直後に出てくる「苦」に脚註をつけているが、船の挿絵があればより理解しやすい。

東京書籍・三省堂・光村図書の三社の挿絵は、川か海かはっきりしない挿絵であるが、教育出版だけは、紹興の観光写真に見るようなクリークと船⁹⁾とが描かれた、踏み込んだ挿絵となっている。

(3) 一族

東京書籍と教育出版は註を付していないが、光村図書の註が理解を助けるものである。

(4) 城内

東京書籍・教育出版の丁寧な脚註が理解しやすい。

(5) 高い塀に囲まれた中庭から四角な空を眺めている

日本語を理解する分には何の問題もないせいか、どの会社も註なしである。が、「高い塀に囲まれた中庭」というものは、日本ではあまり見かけるものではなく、具体的に思い浮かべることが難しい。

今も紹興にある鲁迅故里¹⁰⁾を撮影した写真¹¹⁾の中には、塀や建物に囲まれ空が四角に見えるものがある。そうした写真を掲載することができれば、理解の助けとなるであろう。

(6) スカート

東京書籍・光村図書のような詳しい脚註が望ましい。

(7) 偶像崇拜

「閩土が香炉と燭台を所望」することが、どうし

て「偶像崇拜」になるのか、ここでの「偶像」とは何か、わかりにくい、全社説明の註を加えていない。「私」の回想場面の中に「正月に、祖先の像を祭る」と出てくる「祖先の像」のことなのか。あるいは、仏教・道教・儒教のような宗教的なものなのか、説明がほしいところである。

ちなみに、教科書会社が詳しい註をつけている箇所も多くは、『鲁迅文集第一巻』の竹内好による訳註を参考にしていただろうと思われるが、「偶像崇拜」に関して、竹内好の訳註はない。

註

- 1) 詳しくは、拙稿の「文学教材本文の問題(2) — 『少年の日の思い出』 —」(『現代教育学部紀要』第6号、2014年3月)を参照されたい。
- 2) 検討に使用した教科書は以下のものである。
『新しい国語3』(東京書籍、2024年)
『現代の国語3』(三省堂、2024年)
『伝え合う言葉 中学国語3』(教育出版、2024年)
『国語3』(光村図書、2024年)
- 3) 竹内好訳『鲁迅文集第一巻』(筑摩書房、1983年新装版)の表記に拠った。
- 4) 『鲁迅全集』(人民文学出版社出版、2005年)
- 5) 竹内好訳『鲁迅文集第一巻』(筑摩書房、1983年新装版)以下、「故郷」からの引用もこれに拠る。
- 6) 『世界地図帳』(昭文社、2002年)
- 7) 『鲁迅全集』(人民文学出版社出版、2005年)
- 8) 註7)『鲁迅全集』の原文では「我们的船向前走，两岸的青山在黄昏中」とある。
- 9) 烏篷船と呼ばれるものか。
- 10) 鲁迅故里の公的サイト
<http://sxlxmuseum.com/rby/js/lxgx.htm> (2024年9月23日最終閲覧)
- 11) 写真
<https://4travel.jp/travelogue/10839679> (2024年9月23日最終閲覧)

受付日 2024年9月30日

受理日 2024年10月22日